

現行都市マス 第4章 全体構想 ～都市計画の方針～	
第1節 土地利用	商業・業務の集積地等における土地利用 *主に該当する用途地域等(商業, 近隣商業)
	ものづくり産業等の集積地における土地利用 (工業, 準工業)
	良好な居住環境を誘導する土地利用 (全市)
	緑豊かな地域における土地利用 (調整区域, 都市計画区域外)
	京都の魅力を高める土地利用 (全市)
	大規模な低未利用地における土地利用 (全市)
第2節～第9節 歩くまち, 景観, 防災, 道路, 公園・緑地, 市街地整備, 水・河川, その他市民の暮らしを支える施設	

現行

拡充する3つの視点と主な方策の検討		
①新たな時代の「職住共存・職住近接」	②広域的な視点と「都市圏」	③これからの「暮らしと営み」に対応したまちづくり
○京都ならではの歴史的な市街地の魅力を高める機能の充実 広域拠点	○京都の都市格と地域経済をけん引するオフィスの集積 (京都都市圏の中核としての求心力の向上) 広域拠点	○京都ならではの歴史的な市街地の魅力を高める機能の充実(再掲) 広域拠点
○居住地から近くアクセス性の高い働く場の充実 地域中核拠点	○市境における都市計画の一体性の向上・相互効果の発揮 (創造ゾーンを新たなコアとした京都都市圏の更なる活力創出) 地域中核拠点 ものづくり 日常生活	○都市の魅力や強靭性を高める環境整備 地域中核拠点 ものづくり
○都市インフラの整備に対応した土地利用の推進 ・地下鉄など既存の公共交通網の有効活用 ・将来, 整備予定の都市インフラの戦略的活用 地域中核拠点 ものづくり		○都市の魅力や強靭性を高める環境整備 ○伝統と最先端技術の融合などクリエイティブ産業を支える拠点の充実(再掲) 日常生活
○伝統と最先端技術の融合などクリエイティブ産業を支える拠点の充実 日常生活		○既存集落の住環境・生活環境の充実 緑豊かな
○ものづくりと調和し生活利便が整った居住環境の創出 ものづくり		○身近な生活圏で暮らしを支える多様な機能の充実(再掲) 日常生活
○子育て・若年層のニーズに合った居住環境の充実 地域中核拠点	○高速道路のICに近接し農地など周辺環境とも調和する産業用地の創出 緑豊かな	○農林業や地域資源をいかした地域づくりの核となる機能の充実 緑豊かな
○身近な生活圏で暮らしを支える多様な機能の充実 日常生活		○「学術文化・交流・創造ゾーン」の活用(学生や若手研究者, 芸術家等のための必要な機能充実等)
○公的な低未利用地を活用した地域の魅力を高める都市機能の誘導		
○「政策ブリッジ」の強化		

- ・地域ブランディング
- ・スマートシティ(デジタル化)
- ・ウォークアブルシティ
- ・グリーンインフラ
- ・スタートアップ・エコシステム
- ・防災まちづくりの推進

(凡例) 持続可能な都市構築プランの地域分類 *それぞれの方策の拡充が特に効果的と考えるエリアを表記

広域拠点 : 広域拠点エリア
 地域中核拠点 : 地域中核拠点エリア
 ものづくり : ものづくり産業集積エリア
 日常生活 : 日常生活エリア
 緑豊かな : 緑豊かなエリア